

さぼせん あいかわ

第14号

平成26年
3月15日発行

発行 あいかわ町民活動サポートセンター運営委員会
所在地 愛川町角田 251 番地 1
電話 046-205-1323 FAX 046-205-1324
E-mail ai-saposen@bz01.plala.or.jp
URL http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/saposen/index.html



立ち寄りませんか「さぼせん」に

～町民活動のヒントを見つけよう～

サポートセンター平成26年度事業計画

サポートセンターでは、次年度、右表の内容で事業を実施します。昨年大好評でした登録団体活動写真展の開催に向け、4月にデジカメ講習会を開催します。ぜひご参加ください！



登録団体写真展を役場庁舎にも展示

事業内容	実施予定時期
デジカメ講習会の開催（無料）	4月26日（土）
登録団体活動発表会の開催	6月28日（土）
パソコン教室の開催（無料）	9月下旬
広報紙「さぼせんあいかわ第15号」の発行	10月15日（土）
サボセンPRコーナーの出展 登録団体活動写真展の開催 （ふるさとまつりに併せて実施）	10月下旬
登録団体交流会の開催（テーマ：未定）	27年1月下旬
広報紙「さぼせんあいかわ第16号」の発行	3月15日（土）
パソコン相談室の開催（無料）	毎週火曜日 ・土曜日

参加無料！

地域資源を活かしたまちづくり講演会を開催します

日時：平成26年3月25日（火）

13:30～15:30

場所：役場庁舎分館1・2会議室

講師：地域創造プロデューサー
二瓶 長記 氏



「愛川町の地域資源」ってどんなものがあるでしょうか？川？山？農産物？いえいえ、人も空気も景観も、ありとあらゆるものが地域資源です。講演では、全国の地域資源を活用したまちづくり事例を交えながら、地域資源とはなにかをお話いただきます。



【地域資源一例】
あいかわ10景勝 箕輪耕地遠望

<講師紹介>

全国各地で地域資源を活かしたまちづくりをプロデュースし、国のアドバイザーなども行っている。

<一例>

秦野たばこ祭、呉市100周年記念事業 などその他多数

高齢者支援ボランティア団体交流会を開催しました

サポートセンターに登録している高齢者支援ボランティア団体の情報交換や連携強化を図るため、平成26年2月26日(水)にサポートセンターで「高齢者支援ボランティア団体交流会」を開催し、約40名の方の参加がありました。

当日は、始めに傾聴ボランティアなごみ代表の梅崎桂子氏による「話をきくってなんだろう？」の講演をしていただきました。

普段、何気なしに行っている会話。しかし、人と信頼関係を築くうえで、最も重要なのも会話です。講演では、話を「聞く」と「聴く」との違いのほか、相手の話を聞く際の目線や相槌の打ち方などの体験を交えながら行い、時折、会場内で笑いが出るなど、とても和やかな雰囲気です。参加された方々からは、とても参考になったとの意見が多数寄せられました。



講演を行う梅崎講師



傾聴の体験をする参加者

上手な聴き方のポイント

- ① 相手が話しやすい雰囲気をつくる
- ② 姿勢を考え、声のトーンを抑えてゆっくり話す
- ③ 出会いのときを大切に（挨拶、笑顔、褒める等）
- ④ 相手をよく観察して状況に合わせる
- ⑤ 相づちを打ち、うなずく
- ⑥ 相手の言葉を繰り返す

交流会を終えて

梅崎講師のお話を聞いて、これからは自分も年をとっていくので、相手から何かしていただいた際には、やさしい会話をして「すみません」より笑顔で「ありがとう」と言っていきたいです。

また、交流会では、各団体から高齢化問題が出ました。ある団体は、若い顔見知りの人に声かけをして入会していただき、手芸や料理など得意な分野で活躍していただいているそうです。



交流会の様子



予約不要・参加無料ですので、パソコンの操作等でお困りの際は、お気軽にお越しください♪

他市サポートセンターを視察しました！

サポートセンターでは、毎週火曜日と土曜日の10時～12時にパソコン相談室を実施しています。

ちがさき市民活動サポートセンター

市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与することを目的として、平成15年4月に市の委託事業として運営をスタートし、平成18年4月からは、指定管理者として運営を行っています。場所は、JR茅ヶ崎駅から徒歩10分で、センターの道向かいには大きな商業施設があり、とても利便性がよい場所です。運営体制は、事務局長とスタッフ11名で行い、スタッフの中には法人の役員を兼ねている方や、大学生もいます。サポートセンターの利用時間は9:30～21:30で、勤務は2人体制となっています。

登録団体数は約300団体で、昨年度の延べ利用者数は約3万人となっています。利用者は、シニア世代や主婦に加え、学生や社会人の姿も目立ってきているとのこと。センターが発行している「市民活動ガイドブック」は、毎年更新し、約3,000部発行しているほか、市民活動団体の活動PRや交流事業として、毎年3月に開催する「さぼせんワイワイまつり」や市民活動カフェを実施しています。

また、総合学習の一環として市民活動団体が塾の講師となる授業「ボランティア塾」が市内の高等学校で行われ、次世代の人材育成事業として期待されています。

『よるカフェ』は、人が出会い、つながり、始めるきっかけづくりとなる交流の場。今年2月は、市民活動団体の企画提案で「マンション防災」を開催しました。

サポートセンターのキーワードは「エンパワーメント{内なる力を引き出すこと}」。

指定管理者・公設民営化。大変、勉強になりました。



ちがさき市民活動サポートセンター外観

ひらつか市民活動センター

平成15年5月に、市民活動の推進拠点として公設公営で開設し、今年で10年目を迎えています。場所は、JR平塚駅南口から徒歩2分という好立地で、「応援します！NPO&ボランティア&あなたのやる気」をスローガンに、市民活動団体への各種講習会の開催や、市民向け講座の共催、センターだよりやメールマガジン等の情報発信など、さまざまな事業を実施しています。運営体制は、協働推進課の職員3名、窓口担当として嘱託職員5名と4名のアルバイトで構成していますが、現在、今後の運営体制について、民営化も視野に検討を行っています。

センターの利用時間は、9:00～22:00までとなっており、勤務は2交代制で、受付は各2名ずつ常駐しています。昨年度の延べ利用者数は約5万人、延べ利用団体数は約6,600団体となっています。

事業の特徴として、「公益信託ひらつか市民ファンド」があり、市民の自主的な公益活動（市民活動）に対し、ファンド（基金）を活用して助成金を給付しています。また、毎年、

市民活動のPRと地域貢献を目的とした「市民活動センターまつり」を実施しており、昨年度は、センターに登録している約300団体のうち、54団体が参加、入場者数は1,400人にも上ったとのことでした。

視察をして、市民活動団体情報ファイルや市民活動団体助け合い・お役立ちメニュー、ボランティア情報誌たすけっと等の冊子、月1回発行のひらつか市民活動センターだよりは、市民又は活動団体への啓発と自発的な活動を促す情報コンテンツという点で非常に有効であり、本町サポセンでも参考にしたい取り組みであると感じました。



ひらつか市民活動センター視察の様子

住民提案型協働事業内定事業紹介

みずとみどりの青空博物館の機能を高める事業 (提案団体名：サークル愛川自然観察会)

人と歴史と自然とが触れ合う公園として整備された「八菅山いこいの森」の利用や自然保護を啓発するための情報発信を行うとともに、生態系の復元と保全を図る事業。

【主な内容】

- ① 青空博物館休憩所内の掲示物の更新。愛川町内の季節ごとの自然情報の展示・掲示
- ② 公園内を中心とした四季の自然観察会の実施
- ③ トンボ池を本来あるべき姿へ復元するため、池に生息する外来種を駆除することの必要性を啓発する看板の設置

【事業費】56,990円

地域密着型災害ボランティア養成講座の実施事業 (提案団体名：あいかわ町災害ボランティアネットワーク)

「いざ」というときに備える知識や互助のために役立つ知識を習得するための「地域密着型災害ボランティア養成講座（初級編）」を開催するとともに、平成25・26年度に初級編を受講済みの方を中心として、「中級編」を実施し、地域密着型災害ボランティアのレベルアップを図る事業。

【主な内容】

- ① 初級編（上半期1回）
- ② 中級編（下半期1回）

<対象者>

自治会役員、民生児童委員、広域避難所運営委員、町登録災害ボランティア、その他災害ボランティア活動に関心・興味のある人等

【事業費】135,770円

住民の移動能力を考慮した「逃げ地図」の制作と避難行動の具体化事業 (提案団体名：神奈川わかものシンクタンク)

小沢自治会をモデルとして、住民の移動能力と移動必要距離、災害時に不通になる可能性のあるルート进行调查し、個々の避難行動の判断を適切に促すための地図を製作する。その地図を活用して自治会の防災訓練などを行い、避難行動を具体化する事業。

【主な内容】

- ① 自主防災組織による、移動能力に関するアンケートの実施
- ② アンケートをもとにした「逃げ図」の作成
- ③ 課題を踏まえた防災訓練の実施
- ④ 災害時に不通になる可能性のあるルートの調査

【事業費】31,250円

(仮称)読んであげたい、読ませたいブックガイド ——「読書へのいざない」——の作成事業 (提案団体名：愛川町子どもの読書を推進する会)

子どもたちの読書を通じた人格形成に資することを期待し、「愛川町子ども読書活動推進計画」にも謳われている、ブックガイドを作成するとともに、町内学校や公民館等に配布し、教師や読書ボランティアに活用していただく事業。

【主な内容】

- ① 編集会議を立ち上げ、専門家の指導のもとに、原稿の推敲、編集作業を行う
- ② ブックガイド収録作品発行元の書籍会社との著作権手続
- ③ 業者の選定・印刷・発行（配布先：町内小中学校、保育園、幼稚園、図書館、各公民館など）
- ④ 発行冊数：400冊

【事業費】778,532円

編集後記

今回のキャッチフレーズは **立ち寄りませんが「サポセン」に～町民活動のヒントを見つけよう～**にしました。町民活動とは、熱い志を持ち営利を目的としないで自分たちの得意なことを活かして社会に役立つ活動をすることです。これまで、サポセンの利用者は、シニア世代や主婦が多かったのですが、学生や社会人の方もぜひ立ち寄ってほしいと思っています。コミュニティ面に掲載されています高齢者支援ボランティア団体交流会、高齢化が進む中での交流会は、大変参考になりました。家庭・地域での原点はあいさつです。声をだし、相手の名前を言ってあいさつをしませんか。(M.O)